

蹴



友



開成サッカー一部
OB会誌 No.30
2010年10月15日

会費の払い込み、よろしくお願いいたします。
現役やOBチームの活動をサポートするため
に、一会計年度(前年10月～9月)で一口
五千元(出来れば二口一万円)のOB会費の
払い込みをお願いいたします。
※振込方法は8Pの「事務局からの御礼と御
願い」をご参照ください。

平成二十二年

OB会 総会

日時 平成二十二年十一月二十三日(火曜日・祝日)

■今年も勤労感謝の日に開催

ゲーム 於・母校グラウンド／午後一時より

■時刻はキック・オフ 集合は三〇分前

総会・懇親会 於・母校食堂

五時～七時

会費

社会人 壹万円、40歳未満は五千元

学生 貳千元 現役生 招待

▼ 同封の返信用葉書に出欠等を記入の上、十一月十五日(月)までに必ずご返送下さい。会員名簿の資料になります。ご協力下さい。

▼ ゲーム 年配者にも優しい企画を心がけます。小雨にても決行。

▼ 懇親会 現役生も参加予定。会費にその食費も折り込んで設定。



▼ 損か得かではなく、好きか嫌いかでもなく、「美しいか美しくないか」という価値判断をすることが、僕たちの人生にもあっているのではないか……二十三人のサムライを率いて、南アフリカW杯でベスト一六進出を果たした岡田武史さんが語っている。▼また、サムライは、「美しさ」を貫くためには家族や自分の命さえ捨てることもある理不尽さを抱えた存在……とも言っている。▼ふと思いついたのは「忠臣蔵」。あの芝居では一体何人が死ぬのか。七段目の登場人物は、大方がその場で死ぬ人、やがて死ぬ人。「いろは武士」四十七士は、死を運命付けられた集団。敵役の吉良上野介も殺される。▼生きざま、死に甲斐、美しく死ぬ事、そして「義」は「忠臣蔵」では「死」に直結する思想。サムライ以外にないものかな。

副会長中村の観戦記3本立て！

☆観戦記①OBチーム

荒川区代表として「第4回東京都区市町サッカー選手権」に出場、準々決勝で優勝したFCセルブスに0…1で惜敗！

OBチーム（OB会でサポートしているH16～22卒のチーム）が、所属している荒川区社会人リーグの代表として「第4回東京都区市町サッカー選手権」各区市町の34チーム」に出場しました。一回戦（○●）を2…1、二回戦（○●）を3…2で突破し、準々決勝（○●）で大会2連覇中のFCセルブス（杉並区代表）と五分五分の手に汗握る熱戦を展開しましたが、後半終了直前にFKから失点し0…1で惜敗し、残念ながらベスト4進出はなりません。ベンチに入っていた私・中村（名前だけ監督ですが）の心境は、ワールドカップでの岡田監督と同じく「勝たせてやりたかった」の一言でした。

一回戦は葛飾区代表のFC Crossに2…1で勝利しました。

炎天下の人工芝での40分ハーフは体力勝負になる上に、ゲーム開始時には11人ちようど（しかも主力2人が怪我を抱えていた）という厳しい状況の中で試合が始まりました。ボールポゼッション6…4でOBチームが押し込む展開が続く中、20分過ぎにゲームは動きました。OBチームの左SBの近藤が相手のパスをカットし、サポートに来たHBにボールを預けてそのままディフェンスラインの裏に走り込むと浮玉のリターンパスがきれいに通り、飛び出したGKの脇を抜いたシュートが決まりました。さらに30分には素晴らしいサイド攻撃から追加点が入りました。相手陣内の右サイドのオープンスペースにこぼれたボールをOBチームの右SBが出足よく拾い、ゴールラインまで持ち込んで折



始めました。15分過ぎに右サイドからの戻し気味のセンターリングをペナルティアーキの真ん中で受けたMF中太が寄せて来たバックを見事なボール跨ぎのフェイントで左に外すとそのまま左足を振り抜きました。次の瞬間にはグラウンダーのナイスシュートが右隅のネットを揺らしていました。5分後の追加点も右サイドからの攻撃でした。右サイドからパスを受けたFW大野が縦に抜け出てゴールエリア右角付近でカバーに来たディフェンスを大きな切り返しで外し、飛び出したキーパーの脇を抜く見事なシュートを決めました。2…0で残り20分です。相手の動きは明らかに鈍くなっているし、OBチームのバックからのボール回しも上手くいっている、私は「このままか、もう一点決めて3…0くらいで勝てるな」と楽観しながらラスト10分を迎えました。ところが、勝ち急いだのでしょうか、マークを確認している途中に蹴られた相手の右からのCKが何とニアポストを通過して飛び込んで来たFWに簡単に押し込まれてしまいました。しかし、まだ2…1です。落ち着いてプレーすれば楽に逃げ切れるのですが、俄然相手が勢い付いて縦々とボールを入れてくる中、ラスト3分を切った辺りで単純な縦へのフィードにBKが競り負けてゴールエリアの右角辺りから流し込まれて何と2…2の同点に追いつかれてしまいました。もうベンチに座ってはいられません。自然とテクニカルエリアに出て「攻めろ！攻めろ！」と声を出していました。「参ったな、PK戦かよ！」と、日本VSパラグアイのPK戦での敗戦が私の脳裏に浮かんた時に、大会本部からロスタイム3分の声が掛かりました。2…0から追いつかれてのPK戦は流れが悪いし、35度の炎天下でPK戦を見守るのはア

返したセンターリングをヘディングシュートはうまいがキックでのシュートが決まらないと定評にあるFW大野（ごめん?!）が見事なダイレクトシュートをゴール左隅に叩き込みました。前半終了間際には相手のFKがゴール右隅を襲いましたが、GK吉田がナイスセーブし2…0で前半を終了しました。

後半は、スペインvsパラグアイ（準々決勝）を見て寝坊し前半途中に到着したMF中太の投入時期を計りながらスタートしました。OBチームは、怪我を抱えながら出場している2人の状態を見ながら無理な攻めは控えて時間を消化していましたが、こぼれ球を拾えなくなったので後半10分過ぎに選手交代を行ないました。後半半ばに、ペナルティエリアの左角辺りからのFKを長身のFWにヘディングですらされクロスバーの下に当たってゴールラインに落ちたのを線審にゴールと認定され2…1に迫られましたが、慌てることもなくその後もボールキープを続け無難にゲームを終了させました。

二回戦は立川市代表のベイブリッジ3…2で勝利しました。

ベイブリッジは、コンビネーションのいいツートップを真ん中に据えて中盤から手数を掛けずにオープンスペースにロングフィードを送ってきました。4バックのOBチームは開始当初はツートップに対するマークの受け渡しに乱れて少しバタつきましたが、10分過ぎからはバックラインも安定し、ボールを回してサイドから攻めていく本来の攻撃パターンが始めました。しかし、相手の4バック&3ボランチの堅守を崩せないまま、前半はお互いに決定機を作れず探り合いのような展開が続き0…0で終了しました。

後半も前半同様に、ボールを繋いでサイドから攻めようとするOBチームに対して、ベイブリッジはツートップにボールを集めて中央突破を狙うという攻防が続きましたが、次第に相手の中盤の動きが鈍くなる中、OBチームのサイドからの攻撃が目立ち

ラ還（around 還暦）の私にはシンドイので、フィールドに向かって「ロスタイム3分だ、点を取れ！」と叫んでいました。この私の悲痛な叫びが聞こえたのでしょうか、左サイドでフリーになったMF中太からのセンターリングが逆サイドに詰めていたFW境野に渡り、ワントラップの後のシュートがネットを揺らしていました。3…2です。このロスタイムの得点は相手の反撃の気力を奪うのには十分でした。私は「PK戦を見ないで本当に助かった」と思いながらタイムアップのホイッスルを聞いていました。観客にとっては面白い試合だったでしょうが、監督にとっては非常に疲れる試合でした。お願いだから、もう少し楽に試合を見させてよ…！

準々決勝は大会2連覇中のFCセルブス（杉並区代表）と接戦、0…1で惜敗し、残念ながらベスト4進出はなりませんでした。

大会2連覇中のFCセルブス（杉並区代表）は、体格も良くかつ球回しもうまいチームで序盤は若干押され気味の展開が続きました。特に10分過ぎのゴール正面30mからのFKは本田のようなブレ球がGK吉田を襲い、ファンブルしましたが素早くリカバリーし事なきを得ました。OBチームも次第に相手の動きに慣れて五分五分の展開に持ち込む中、15分に左サイドでのパス交換からペナルティエリアの外でパスを受けたFW境野がワントラップ後素早く左足で放ったシュートはゴール右隅に飛びましたが、相手GKのナイスセーブに阻まれました。さらに、30分過ぎに右サイドからのFKのこぼれ球に反応したMF中太が放ったシュートは惜しくも左ポストに当たり、跳ね返りも詰めきれず得点出来ませんでした。結局、前半はお互いにチャンスは作るがGKが踏ん張って凌ぐという好ゲームが展開され0…0で終了しました。

後半も一進一退の展開が続きましたが、20分の給水タイム後からOBチームが立て続けにチャンスを作りました。25分に左サイ

ドでパスを受けたMF中太が前を向いた瞬間にマークを上手く外し正面右でフリーになったFW大野にキラーパス（本場にナイスパス）が通り、飛び出したGKと一対一になりましたが、放ったシュートはGKの正面（大野のバカー）を突いてしまいました。さらに、30分過ぎには右からのCKに飛び込んだヘディングの強いDF近藤が放ったヘディングシュートはクロスバーに阻まれてしまいました。「PK戦の前に確か延長があったよな」とベンチで話をしている35分過ぎに相手にペナルティエリア右角近くでFKのチャンスを与えてしまいました。低く速いシュート気味のボールをGKとディフェンスラインの間に蹴られ、GKが飛び出せず見送ったボールが左ポストに当り跳ね返ったりバンドをうまくプッシュされて失点してしまいました。ロスタイムを含めあと5分程度です。OBチームは果敢に攻め、ロスタイムに入る寸前にゴール正面でFKのチャンスを得ました。キャプテンであるMF草川が直接狙ったシュートはクロスバーに弾かれそのままタイムアップを迎え0・1で惜敗しました。ちょうどこの間のワールドカップの3位決定戦のような終わり方でした。非常にいいサッカーをしていたので残念でした。

OBチームでは参加希望者募集！

OBチームは昨年度（09年度）荒川区社会人リーグの3部で全勝優勝し、今年から2部に上がっています。

今後は東京都リーグにも加盟し、東京都と荒川区の両方で活動していく計画です。それに伴いOBチームでは参加希望者（社会人も大学院生・大学生でもOK）を募集しています。キャプテンのH17卒草川君までご連絡ください。↓※

OB会では、OBチームを助成していきます。
あなたもAリーガー！ ぜひOB会費にご協力ください。

☆観戦記②高校 高校サッカー選手権の地区大会は二回戦で都立小松川に0・0（PK1・4）で惜敗！

高校サッカー選手権の地区大会（江戸川区・江東区・葛飾区・墨田区・荒川区）で、開成高は一回戦（8/25）で都立葛飾商業を6・0と圧勝し、二回戦（8/27）で春の高校総体都選ベスト32の都立小松川と対戦しましたが、0・0（PK1・4）で惜敗しました。

一回戦はとんでもない暑さの中圧勝でした

キックオフは葛飾商でしたが、セクターマークに置かれたボールに誰も近づきません。「あれっ？！」と思って見ていると後方から走って来た選手がそのまま開成のゴールに向けてキックしました。高く上がったボールは意外に伸びてクロスバーの上部に当たりGKになりました。「何だ、葛飾商は遊んでいるのか？」と思っていると、案の定、開成は直後のGKから得点しました。GKのこぼれ球を拾って右サイドでボールを回し、ペナルティサークル辺りから右へ流れた11番にタイミングの良いスルーパスが通りました。マーカーを外してセクターリングだなどと思って見ていると、DFの寄せが甘かったので11番はそのまま右足でシュートしました。ボールはグラウンダーで左のサイドネットを揺らし開始1分で先取点が入りました。こんなに甘いディフェンスならかなり点が取れるなど見ていると、5分に追加点が入りました。中盤からのパスをペナルティサークルから下がって受けたツートップの一人がDFの後ろからのチェックが甘い中、楽に周りを見て左サイドに開きフリーになっていた9番へスルーパス。9番はワントラップ後に左足でシュート。GKがこぼしたボールを詰めていたFWがプッシュして2・0となりました。その後は、ポジェッションも7・3以上とボールを圧倒的に支配する中、余りに簡単

に点が取れたことと暑さで動きが悪くなったからでしょうか、中盤での繋ぎを省略したような攻めが目立ちましたが、開成はさらに15分、30分と得点し、4・0で前半を終了しました。私は午後から予定があったので後半を見ないで帰りましたが、東京都サッカー協会のHPで確認すると後半に2点を追加し、6・0の圧勝という結果でした。

二回戦は都立小松川と接戦、PK戦で惜敗

※この試合は平日の10時キックオフだったためさすがに観戦は出来ませんでした。観戦記をご愛読の方々、申し訳ありません。しかし、今年のチームには昨年の首都圏私立中学校チャンピオンズカップに東京都代表（都予選優勝）として出場した現高一が3人スタメンに入っており、秋の新人戦や来年度が期待できるチームですので今後とも応援よろしくお願いします。

☆観戦記③一中学

「東京都中学校総合体育大会兼東京都中学校サッカー選手権大会」の本大会の三回戦（ベスト16）まで進出！

開成中は、「第49回東京都中学校総合体育大会兼第63回東京都中学校サッカー選手権大会」の本大会（東京都ベスト40）に進出し、一回戦（7/23）は6・0で圧勝、二回戦（7/24）は終了直前の得点で1・0と競り勝ちベスト16に進みましたが、三回戦（7/26）で由井中（八王子市）に0・2で敗退し、残念ながらベスト8進出はなりませんでした。

一回戦（7/23）は駒沢公園第二球技場で朝鮮第五中との間で行われ、6・0で圧勝しベスト32に進みました。

※私こと中村は、朝9時からの定例会議終了後、急いで会社を離脱して駒沢公園に向かいましたが、スタンドに到着したのは前半



終了10分前でした。応援している開成の生徒に「勝ってる？」と聞いたら、「1・0で勝ってます」との返事だったので、どこか日陰はないかな？と探していると同じく観戦に来ていたH13卒の長船君と目が合ってしまったので前半終了まで炎天下のスタンドで並んで観戦する羽目になりました。圧倒的な優勢で追加点のチャンスが何度あったのに決めきれないまま1・0で終了しました。午前中でも35度近い炎天下です。午後には会社に戻らなければならぬし、「57歳会社員熱中症で倒れる」なんてことになったらやばいし、長船君に謝って後半はゴール裏の日陰で観戦することにしました。後半5分過ぎに試合が動きました。開成中のツートップの一人13番が素早いドリブルでペナルティアーキの左端から縦にディフェンスラインを突破し、グラウンダーのセクターリングをGKとBKの間に通すと右から詰めてきたMFの6番がプッシュして待望の追加点が入りました。この失点で第五中は攻めざるを得なくなり、最終ラインが薄くなっている中、中盤でのこぼれ球を拾ってからの速攻が立て続けに決まり勝負が付きました。終了直前にも右CKからのヘディングシュートが決まり、最終的には6・0の圧勝に終わりました。

二回戦（7/24）は成城中にせり勝ってベスト16に進出！

※私こと中村は、予想最高気温が35度という猛暑の中でのキックオフなので万全な熱中症対策を施し、会場に向かいました。この競技場は屋根のあるメインスタンドがあり、ちょうど日陰になっていたので、何とか無事に観戦することが出来ました。

※草川君のメールアドレス→ 'pep_4_xavi_6@yahoo.co.jp'

前半は中盤での潰し合いからお互いにゲームが作れない展開が続きました。開成中で言えば、中盤の9番と10番にうまくボールが集まらないのでボール回しが出来ず、サイドバックもスペースに上がれないといった展開で、結局、前半は0・0で終了しました。後半も膠着状態が続きましたが、10分過ぎに成城中に攻め込まれ、右CKのこぼれ球からの近距離シュートをGKが弾き、さらなるリバンドシュートもGKの好セーブで事なきを得ました。成城中が押し気味にゲームを進める中、残り2分を切った辺りで開成中のクリアボールが中盤でうまく繋がり、8番から7番へのカウンターの縦パスが通り、飛び出したGKの脇を抜けるシュートが右サイドへ蹴り込まれました。ロスタイムは3分です。成城中が前掛かりになる中、開成中は速攻を狙うという展開が続きます。タイムアップとなりました。1・0の勝利です。試合後、池谷先生に声を掛けたら「勝ちを拾いました!」とのコメントが帰ってきました。

三回戦は駒沢公園第二球技場でベスト8を賭けて由井中(八王子市)と対戦、残念ながら0・2で敗れました

※私こと中村は「勤務時間離脱」が出来ませんでしたので、以下にH13卒の長船君に送ってもらったレポートを掲載します。

前半の序盤は開成中がいい攻撃を仕掛けた。プレスを前からきつめかけ中盤でボールをカットし、右サイドに展開、そのままシュートにもちこむが不発。さらに、またもや中盤のプレスからカットして大きく右サイドに展開し相手の裏を突くが、戻ったDFにうまく体を入れられてしまう。今度は相手の中盤のパス交換から左サイドを崩され、中に切り込まれシュートを打たれる。ここまで5分くらいしか経ってないがお互いにいい形を作り、好ゲームの感触。しかし、その後は一転して相手ペースで試合が進んだ。由井中はボランチを中心とした中盤のパス交換でボールをキープし、開成中のプレスが甘くなった所からサイドを攻めてい

連載・私の青春とサッカー

榮 隆男(昭和33卒)



② 早稲田大学ア式蹴球部

念願かなって入学した早稲田大学のサッカー部の正式名称は今もなおこのままである。ちなみに慶応義塾大学はサッカー部を今も名乗っている。その蹴球部は体育会運動部であるから、上下関係はもとより、規律も厳しかった。2年遅れの入部も、2ヶ月くらい過ぎると身体もほぼ慣れて、厳しい練習の後に自主練習を行えるくらいの余裕も持てるようになった。

ところで、当時、早稲田大学には教育学部を除き、文、政経、法、商、理工のすべての学部には昼間の第Ⅰ学部と夜間の第Ⅱ学部があった。第Ⅱ学部の本来の目的は働きながら学業に励む、いわゆる「苦学生」のためであった。そして授業も昼間に変わらない内容が行われていた。早稲田のみならず、多くの大学は第Ⅱ学部を併設していた。

私が入学した頃も、勿論、こうした苦学生はいたが、当時すでに、第Ⅱ学部の学生の大半は、第Ⅰ学部に入れなかった学生で埋められていた。そして、運動部の大部分の学生は実は第Ⅱ学部の所属であった。第Ⅰ学部の受験倍率が、学部によつては20・30倍にも及ぶことがあり、スポーツで全国レベルの活躍をし、学業も同等にということは容易なことではなかったのである。それ故、現役入学のほとんどのスポーツ選手は第Ⅱ学部に所属していたのである。

そうになると、練習は必然的に昼間となる。1・4時の練習となると昼間部の学生は、授業を午前中に取らなければならなくなる。50数人の蹴球部のうち昼間部の学生は各学年1名程度、1年生も私一人であった。その1年生は、上級生より1時間は早くグラウンドに出て練習の準備をしなければならなかった。最大の仕事は

く形を何度も作る。それに対しなんとか守りクリアするが、そのボールを相手に拾われ防戦一方となった。相手のCKが3本ぐらい続き、GKがかぶるシーンもあったがシュートミスで助かる。その後も相手の形からサイドを崩され中に切れ込まれたが、または決定的な場面をシュートミスで助かる。なんとか守ってきたが、前半14分に中盤のパス交換から今度はセンターを攻められ、開成中の10番のボランチが粘り強い守備をしたがボールを取りきれず、鋭いミドルを決められてしまう。0・1。直後に給水タイム、うまく切り替えてもらいたい。ここから23分までは開成中はうまく守り決定機は作らせず。しかし、開成中が中盤を作り攻めたところでもうまくパスカットされカウンターをくらってしまう。相手の中盤がドリブルで持ち上がり、左サイドに開いたFWにパス。中に切れ込まれゴール左隅にシュートを決められる。このまま0・2で前半終了。

後半はゆつたりとした立ち上がりだったが、やはり相手に中盤を支配され、前半同様防戦となる。開成中はトップ下の9番がフリーでボールを受けた時に相手の裏を突くパスを何本か出すが、相手のDFも堅い。後半22分、開成中が右サイドをドリブルで突破し低いクロスを入れるが、中で合わせきれずゴール左へ外してしまう。これが一番の決定機だった。その後、開成中は最後の力を振り絞り攻めるもゴールは入れられず、試合終了となる。0・2で負けてしまった。相手の中盤の7番と8番がうまくゲームをコントロールしていた。そこにボールが入ったときの対策ができれば開成の守備が後手に回ることなく、中盤の戦いになったのではない。



ボールへの空気入れであった。現在の学生諸君には想像及ばないと思うが、当時のボールは、外側の皮革と中のチューブは別々のものであった。自転車のタイヤとチューブの関係と同じである。チューブにはヘソと呼ばれる6・7cmの口ゴムが付いていた。外皮には7・8cmの穴があいていて、内側にはペロと呼ばれるチューブ抑えの皮が付いていた。運動靴の編みひもと内側のペロ部分と同じである。そのペロにはチューブのヘソを通す丸い穴があいていた。空気を入れるとヘソを輪ゴムで折り止め、外皮とペロの間に折り込み、口をヒモで編み上げてしっかりと閉じる。口がしっかりと閉じていないとボールはいびつになり、ヘッドリングなどで本当に「痛い目」に会う羽目になる。その時「十手又はニードル」と呼ばれる器具を使う。この作業は職人技に近い仕事であった。牛皮製のボールはそれはそれは大切に扱われていて、練習後はきれいに拭い、ワックスでその都度磨いて空気を抜いて保管するのが常識であった。

昼間部の学生であった私が、早稲田から高田馬場へ出て、西武新宿線で東伏見のグラウンドにたどり着くには、どうしても小一時間かかる。練習には間に合っても1年生の仕事には間に合わない。後片付けを引き受けることになった。しかし、20・30個のボールにワックスをかけ磨き、ヒモを解き空気を抜く作業は簡単ではなかった。

こうした家と大学とグラウンドの三角点を結ぶタイトな日常は厳しくはあっても慣れてくると苦にはならなかった。大学で初めて出会った「哲学」の授業には魂を揺さぶられるものがあり、好きなサッカーに打ち込める生活は心の弾むものであったからである。

しかし、そうした大学生活を覆い尽くすような社会的な大事件が実は入学時からすでに世の中を騒然とさせていた。第一次安保闘争であった。私の青春も大きく揺さぶられることになったのである。

(次号へ続く)

活動報告



フットサル大会&懇親会

6月6日、OB会の春のイベントである「フットサル大会&懇親会(第7回)」が開催されました。昨年同様にジヨモニスタ南与野のコート3面をすべて貸し切って、10(20歳代の若手OBは「学年対抗ガチンコフットサル」、30歳以上OBは「年齢相応のそれなりフットサル」で楽しいひと時を過ごしました。途中、H6卒の太田君がアキレス腱を切るというアクシデントがありました。整形外科医であるS55の最上さんとS60の東君の適切な処置(救急車が来るまでの応急措置や入院する病院&手術の手配)を受けて、翌日には無事に手術が成功し、S47の中村さんが病院にお見舞いに行った時には思いのほか元気にしていたそうです。17時からの懇親会はいつものようにS54の石田さんの蟹料理屋「千佳勢」にて、美味しい蟹とお酒に舌鼓を打ちながら年代を超えてサッカー談議や開成談議に花を咲かせました。(※右写真)OB会の世代を繋いで行くためにこの「フットサル大会&懇親会」は毎年開催していきますので皆さん是非参加してください。すごく楽しいですよ。

(S60安藤記)

現役戦績 略報

中学記録

- 春期大会
 - 第五ブロック Bブロック 2位
 - 第三代表決定戦
 - 開成2-0足立14中 ● 都大会進出
- 春季都大会
 - 一回戦 ○開成1-0広尾中学 ●
 - 都大会進出
- 地区予選 3位
- 第五ブロック Bブロック 優勝
- 都大会進出
- 総合体育大会都大会
 - 一回戦 ○開成6-0朝鮮第五中学 ●
 - 二回戦 ○開成1-0成城中学 ●
 - 三回戦 ●開成0-2由井中学 ○
 - 都ベスト16

高校記録

- リバーサイドユースリーグ
 - 1部リーグ 開成A
 - 全勝優勝 Eリーグへの昇格を果たす
 - 得点王表彰 高橋翔平 10得点
 - 2部リーグ 開成B
 - 8位

インターハイ予選
一回戦 ●開成0-6立教池袋高校 ○

選手権地区予選

一回戦 ○開成6-0葛飾商業高校 ●
二回戦 ●開成0-0小松川高校 ○
pk 1-4

事務局からの御礼と御願い

OB会費の払い込み、誠にありがとうございました。

昨年度(昨年10月~9月)にOB会費を払い込みいただいた方々のお名前は同封の別紙に掲載させていただきました。

また、今年度も払い込みいただいたOB会費の中から60万円を母校サッカー部に助成いたしましたことをご報告いたします。

OB会事務局では、今後も世代を繋いでいくために一学年で30名前後もいる現役部員や本誌で紹介したOBチームの活動を継続してサポートしていきたいと考えておりますので、社会人OBの方々を中心に一会計年度で一口五千元(出来れば二口一万円)のOB会費の払い込みを何卒よろしくお願いたします。

尚、従来の郵便振込用での振込の他にゆうちょ銀行への直接振込(ATMやネットバンク)も可能になり振り込みやすくなりました。

■振込口座は↓※